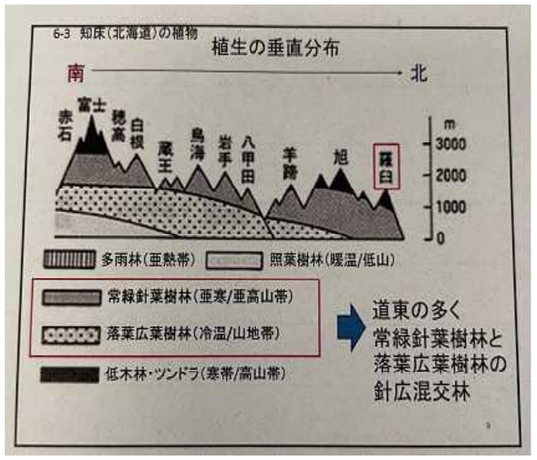
北海道羅臼高等学校 通信 No27
R3.7.6

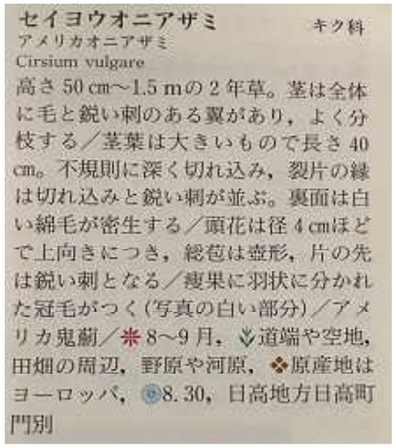
２学年選択「知床概論Ⅱ」の授業 Part ２

１　科目名　知床学Ⅱ（２年選択・１単位）
２　講　師　林野庁 北海道森林管理局 計画保全部 知床森林生態系保全センター
　　専　門　官　片山　洸彰　氏
　　森林保護員　小林三希子　氏
３　内　容　「知床の森林」について
　　次の３項目①水平分布と垂直分布、②知床の植物、③知床の森林の特徴について、パワーポイントを使ってわかりやすく講義をして頂いた。
　　知床の森林については、その特殊性（地域特有の様相）を具体的なデータと樹木の画像を使って説明され、授業の後半は野球場周辺で実際に樹木や草本を観察しながら理解を深めた。

道東を代表する樹木は３種
①ダケカンバ(落葉広葉樹)
②トドマツ(常緑針葉樹)
③エゾマツ(常緑針葉樹)

道東の森林の多くは、上記３種の樹木が混在した「針広混交林」の様相を呈する。
ただし、
知床半島それも羅臼側は様相が異なります。
気温：低、積雪量：多、地形：急峻の要因から、
寒さ・雪の重みに強いダケカンバが優位な森を形成している。




セイヨウオニアザミ　キク科
アメリカオニアザミ
Cirsium vulgare
高さ 50 cm～1.5 mの２年草。茎は全体に毛と鋭い刺のある翼があり，よく分枝する／茎葉は大きいもので長さ 40 cm。不規則に深く切れ込み，裂片の縁は切れ込みと鋭い刺が並ぶ。裏面は白い綿毛が密生する／頭花は径 4 cmほどで上向きにつき，総苞は壺形，片の先は鋭い刺となる／痩果に羽状に分かれた冠毛がつく(写真の白い部分)／アメリカ鬼薊／❋8～9 月，⚘道端や空地，田畑の周辺，野原や河原，❖原産地はヨーロッパ，◎8. 30，日高地方日高町門別

↑北海道大学出版社「新北海道の花」
梅沢俊著より参照

中段左の画像は、小林さんが野球場脇で抜き取った「アメリカオニアザミ」について、説明していることろです。
自然度の高い知床半島でも**外来種問題**は切実です。特に１番心配しているのはこのアメリカオニアザミだと説明されました。

日本へは北アメリカから輸入された穀物や牧草に混入して持ち込まれた。1960年代に北海道で初めて確認され、本州や四国でも定着しているが、特に北海道に多い。
利尻島や世界遺産の知床国立公園などの自然度の高い地域に侵入し、在来種と競争し駆逐している。ニホンジカはアメリカオニアザミを食べないため、シカの多い地域（知床など）では本種が増えている。また、牛などの家畜も本種を食べることはなく、酪農地帯では放牧地の害草として知られている。
外来生物法により、生態系被害防止外来種に指定されている。棘を有するため、抜き取って駆除するのは大変である。
本種は、種子で増えるので、掃除刈りで個体数を減らすことが基本です。遅くとも８月の開花直後に花のついた茎を地際から低刈りすると、種子の生産が抑制され、個体数を減らすことができます。二年生の植物ですので最低でも２年間は掃除刈りが必要である。(釧路総合振興局ＨＰ参考)

片山さん、小林さん、よい講義をありがとうございました。